

## 仮想アース Crystal E の導入(18)(HP 収載)

### －仮想アースの製作(3)－

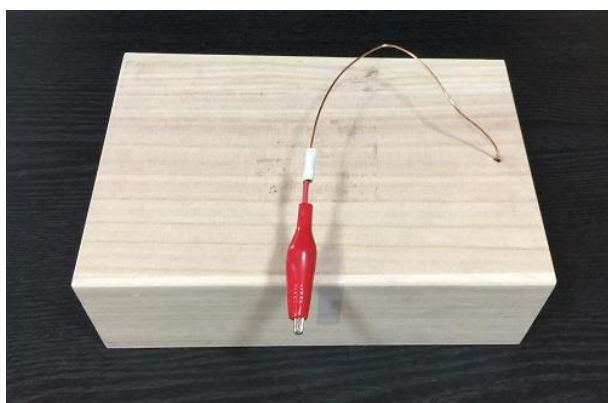
#### 1. 始めに

前報(9)では金属タワシを加工せずに仮想アースとし、前報(12)と前報(14)では異種の金属タワシや木炭を混合してみました。今回も、前報(14)とは、少しばかり素材や加工法や数量を替えたものを検討しました。本報も、Crystal E ではありませんが、整理の都合上、仮想アース Crystal E の導入シリーズに含めて報告いたします。

#### 2. 仮想アース製作と試聴方法

容器は大きめということで、食品贈答用の木箱を準備しました。金属板は4枚準備し、充填物は、ステンレスタワシ2種と真鍮タワシとし、金属板の間にほぐした金属タワシを充填します。今回の金属板は、銅板の他にブリキ板、真鍮板、ステンレス板を準備しました。ステンレスタワシはフィラメント状のものと線状のもの2種類です。

内容物の構成は、容器の底から【ブリキ板→ステンレスタワシA→真鍮板→ステンレスタワシB→銅板→真鍮タワシ→ステンレス板】とし、すべての金属板に無垢の銅線を貫通させて引き出します。

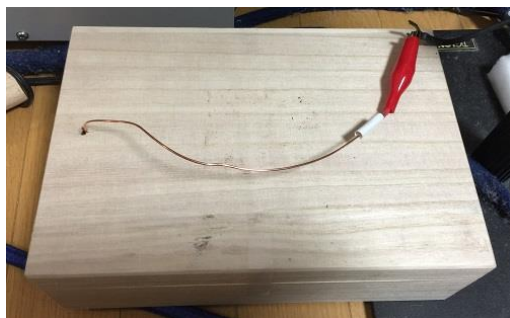


接続先は、前報(6)、前報(11)と同様とし、音源は前報(6)、前報(11)で使用したのから選定します。

なお、スピーカーケーブルの途中には、前報(15)で報告しましたように前報(14)で制作した仮想アースをセットしています。

#### 3. 仮想アースの試聴結果

Brooklyn DAC+への接続のデジタル再生では、前報(6)で再生した BPODCH からロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィルによるマーラーの交響曲第3番とケーシエン（ピアノ）とヤンソンス指揮ベルリンフィルによるリストのピアノ協奏曲第1番をアースなし、仮想アースありと聴いていきました。



マーラーの交響曲第3番では、仮想アースありで、音の分離が向上し、特にコントラバスのホールでの響きが明瞭になり、オーケストラ全体としての迫力がでてきます。

リストのピアノ協奏曲第1番では、仮想アースありで、ピアノの打鍵の音の芯が明瞭になり、スタンウェイの左手の低音の沈みこみの重みがまし、オーケストラの各パートの音の分離と協和が向上します。

EMT981 への接続の CD 再生では、前報(11)で使用した下記 CD を仮想アースなし、仮想アースありと聴いていきました。



#### **Evidence EVCD015**

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他  
フランソワ＝フレデリック・ギィ（ピアノ）

#### **harmonia mundi KKC-5976**

モーツァルト他 ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他  
アンサンブル・ディアーロギ

Sonata for cello and piano では、仮想アースありでは、前報(14)と同様に、ピアノの打鍵に芯が通って余分な響きが後退し、チェロの擦弦音もしっかりして、ボウイングの様子が明瞭になってきます。

ピアノと管楽器のための五重奏曲では、仮想アースありでは、前報(14)と同

様に、フォルテピアノの音の芯が立ち、4つの古楽器の木管の分離が明瞭になって濁りがとれてきます。

加えて、今回使用した金属板の残りを重ねて使用してみました。銅線は、銅板と真鍮板の間から引き出し、4枚の金属板は重ねてテープ止めしただけの簡易的なものです。

ブリキ板→銅板→真鍮板→ステンレス板



この積層金属板を仮想アースとして EMT981 のアース端子に接続してみました。効果があることはありますが、上記の金属板の間に金属タワシを切り刻んで充填したものに比べて、その効果は小さく、金属板に加えて、確かに金属タワシの充填物の効果が加わっているようです。

#### 4. まとめ

今回も、オーディオ仲間とオーディオ誌などからの情報を基に自作した仮想アースの効果を確認しました。全般的には、前報(12)や前報(14)の自作品と同様の傾向を示しています。

以上